

素材のチカラを 未来のタカラに

CSR報告書

2020-2021

戸田工業グループの経営理念とCSR方針	3
戸田工業グループの事業内容と歴史	4
身近な戸田工業グループの製品群	6
経営者ごあいさつ	8
特集I レスポンシブル・ケア 地域対話	9
特集II 環境対応材料	10
特集III モノづくり道場	12
-経営-	14
1) コーポレート・ガバナンス	
2) コンプライアンス	
3) リスク管理	
-事業トピックス-	16
1) 事業の概況と取組み	
2) 拡大する中国事業	
-品質-	20
1) 製品品質向上のために	
2) 品質保証活動	
3) お客様からの問合せ状況	
4) 小集団活動	
-環境安全-	22
1) 環境負荷の低減	
2) 国際NGO:CDP(カーボン・ディスクロージャー・プロジェクト)気候変動質問書	
3) 環境省:環境情報開示基盤整備事業への登録	
4) 第三者(EcoVadis社)によるCSR評価	
5) 持続可能な調達	
6) 安全保障貿易管理	
7) 職場の安全・衛生(安全衛生活動)	
	
	
-社会-	28
1) 地域との交流	
2) 人権に係る取組み	
3) 研修制度	
4) 従業員インタビュー	
5) 次世代育成支援・女性活躍推進活動	
	
組織図	38
事業拠点	39

戸田工業グループでは、2014年度に経営理念、経営方針、行動指針を刷新いたしました。役員・従業員一同、日々これらの理念などに立ち返り、各自の役割・業務にあたっております。

経営理念

私たちグループは、酸化鉄で培った微粒子合成技術を深化させながら、永遠に生々発展します。誠実・信頼を基盤とし創造力と製造力を結集させ、魅力ある独創性に富んだ新素材およびソリューションを通じて、広く社会に貢献します。

経営方針

- ・設立100年を超えても発展し続け、社会に貢献できる「もの作り企業」としての経営基盤を確立します。
- ・Only1技術を磨き、付加価値の高い製品とソリューションを提供し続けます。
- ・グローバルで必要不可欠な存在となり、グループの企業価値を向上させます。
- ・従業員と家族の幸福を求め、ステークホルダーから常に信頼される存在となります。

行動指針

- ・お客様のニーズにお応えする製品とソリューションをスピーディーに提供します。
- ・製・技・販・管、全社一丸となって熱心に仕事に打ち込みます。
- ・誠実でフェアな企業市民として、高い倫理観を持って行動します。
- ・個々の品格を高め、誇りと希望と夢を持ち続けます。
- ・地域社会および地球環境との調和と共生に努めます。

CSR方針

戸田工業グループは、将来への継続的で健全な発展のために、経営理念・経営方針に基づく経営を継続的に行うとともに、よりよき市民、よりよき企業市民として、社会的責任の実現が重要な役割であることを認識し、コンプライアンスの精神を土台として関係法令および社内の諸規程、規則を遵守し、企業トップ自らが率先垂範の上、社内に徹底するとともに、グループ企業や取引先に周知させます。また、政治、行政との健全かつ正常な関係を保ち、市民社会の秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力および団体とは関係を持ちません。

CSR4つの指針

投資家 の皆様に向けて

創造的な技術に裏付けされた質の高い成長による成果の蓄積・提供、透明で健全なコーポレート・ガバナンス体制および有効な内部統制の整備・運用により、投資家の皆様の理解と共感を得る活動に努めます。

社会 に向けて

コンプライアンス精神に則り反社会的勢力との関係を断ち、安全と地球環境への配慮を何物にも優先させ、地域社会と連携し国際社会との協調を図りながら、持てる文化資本をベースに、グローバルレベルの素晴らしい生活文化を作ります。

お客様、取引先 の皆様に向けて

お客さまから見た価値観を共有し、独自に開発した技術力を武器とし、志を同じくする取引先業者と、よきパートナーシップで連携します。そして、誠心誠意、目標に向けて互恵の努力を続けます。

従業員 に向けて

従業員一人ひとりの独創性と多様性が、私たちの財産です。その能力の限りない飛躍と活動を応援し、公正に評価します。そして従業員のゆとりと豊かさの充実に努め、ともに生活していくことを目指します。

戸田工業グループの事業内容

戸田工業グループは、酸化鉄の湿式合成から始まるナノテクノロジーをベースに事業展開しています。酸化鉄は鉄と酸素を中心とした元素の結合様式によって、色や硬さ、強度、磁性などの物理・化学特性が異なります。

戸田工業グループの湿式合成技術の特徴は、酸化鉄を始めとする各種粒子の特性を制御し、求められる機能や特性に合わせて、各種素材を自在に作り分けることができることです。湿式合成技術を基盤としたナノテクノロジーの蓄積は、戸田工業グループのコアコンピタンスとなっています。

酸化鉄を核とした専門知識・技術・ノウハウの集積は、顧客の抱える課題に新しい角度から光を当て、素材の視点からの解決法・ソリューションを見出しています。

近年では、チタン酸バリウムなど素材を熟知した戸田工業だからこそできる電子部材用材料の開発・製造を進め、高度化する顧客のニーズに応えています。また、酸化鉄への原点回帰として、各種の触媒や磁石材料、機能性顔料の開発・製造にも益々力を入れてまいります。

これからも、戸田工業グループ一丸となり、素材を通じて、情報・環境・エネルギーを支えるソリューションを提供してまいります。



戸田工業株式会社紹介ビデオ(4分30秒)を是非、ご覧下さい。

戸田工業グループの歴史

1907年 広島市安佐北区に工場移転(広島工場)	1933年 広島市西区横川新町に戸田工業株式会社設立	1953年 東京営業所、大阪営業所を新設	1959年 山口県山陽小野田市に小野田工場を新設	1971年 広島市西区横川新町に本社移転
1936年 広島市中区舟入南に本社・工場移転	1953年 硫酸鉄を焼成して酸化鉄を製造する過程で、亜硫酸ガスが発生、大きな問題となる	1965年 酸化鉄を水溶液から化学反応によって合成する湿式合成法の開発により、公害問題を克服	1975年 舟入工場を研究・開発専用事業所とする。	

創業 1823年	1910	1920	1930	1940	1950	1960	1970
1823年(文政6年)岡山県井原市にてベンガラ製造を開始	人類最古の顔料、ベンガラの工業的製造から始まる	1953年 京都大学との共同研究を開始。ベンガラ製造が伝統的な“技能”から“技術”として位置づけられる	1953年 広島工場にフェライト材料の生産工場を新設	1953年 鉄鋼製品の製造プロセスから副成する硫酸鉄や塩化鉄を原料として利用	1953年 フェライトパウダー	1969年 小野田工場にオーディオ・ビデオテープ用磁性粉末生産設備を新設	1973年 小野田工場に湿式法による着色顔料工場を新設
1953年 建築の木材塗料 純染めの下地 漆器 番傘の着色 陶磁器(赤絵の釉薬)など	1953年 業界初! 酸化鉄の湿式合成法の開発	1984年 大竹工場にてフェライト材料の生産開始	1988年 小野田工場の電子印刷用着色材料の専用生産設備を新設	1989年 小野田工場にメタルテープ用磁性粉末製造設備を新設	1994年 ダイオキシン抑制 燃焼触媒の開発	1999年 小野田工場にハイドロタルサイトの製造設備を新設	2003年 小野田工場にリチウムイオン二次電池正極材料生産設備を新設
1984年 広島県大竹市に大竹工場を新設	1994年 「戸田工業ヨーロッパ GmbH」を設立	1996年 「戸田アメリカ Incorporated」を設立	1997年 「戸田ピグメント(株)」設立	2000年 広島市中区舟入南に本社移転	2003年 大竹工場にハイドロタルサイトの製造設備を新設	2006年 大竹工場にICタグ用アンテナシートの生産設備を新設	2011年 大竹工場にスマートフォン用NFCフェライトシート生産設備を新設
1983年 東京証券取引所一部上場	1983年 広島市中区舟入南に創造センターを新設	1984年 広島県大竹市に大竹工場を新設	1988年 小野田工場の電子印刷用着色材料の専用生産設備を新設	1989年 小野田工場にメタルテープ用磁性粉末製造設備を新設	1999年 小野田工場にハイドロタルサイトの製造設備を新設	2003年 小野田工場にリチウムイオン二次電池正極材料生産設備を新設	2004年 小野田工場にチタン酸バリウムの製造設備を新設
1991年 大竹工場内に創造本部大竹を新設 海外進出がスタート!	2003年 大竹市に本社移転 中国浙江省に全額出資の「戸田磁磁材料(浙江)有限公司」を設立	2004年 中国浙江省に「浙江東磁戸田磁業有限公司」を設立	2006年 韓国に「戸田フェライトコリアCO.,LTD.」を設立	2007年 中国天津市に「戸田麦格昆磁磁材料(天津)有限公司」を設立	2008年 カナダに「戸田アドバンスドマテリアルズInc.」を設立	2008年 「東京色材工業(株)」の株式を100%取得 韓国に「戸田イス CORPORAION」を設立	2011年 中国浙江省の「戸田聯合実業(浙江)有限公司」を連結子会社化
1983年 中国浙江省に「浙江東磁戸田磁業有限公司」を設立	2006年 韓国に「戸田フェライトコリアCO.,LTD.」を設立	2007年 中国天津市に「戸田麦格昆磁磁材料(天津)有限公司」を設立	2008年 カナダに「戸田アドバンスドマテリアルズInc.」を設立	2008年 「東京色材工業(株)」の株式を100%取得 韓国に「戸田イス CORPORAION」を設立	2014年 広島市に本社移転	2015年 「BASF戸田バッテリーマテリアルズ合同会社」を設立	2016年 「戸田工業アジア(タイランド) CO., Ltd」を設立 「戸田ファインテック(株)」の株式を100%取得
2011年 中国広東省に「戸田磁鉄(深圳)有限公司」を設立	2014年 広島市に本社移転	2015年 「BASF戸田バッテリーマテリアルズ合同会社」を設立	2016年 「戸田工業アジア(タイランド) CO., Ltd」を設立 「戸田ファインテック(株)」の株式を100%取得	2019年 「戸田磁磁材料(浙江)有限公司」移転、増産対応			

最先端技術であなたとともに。

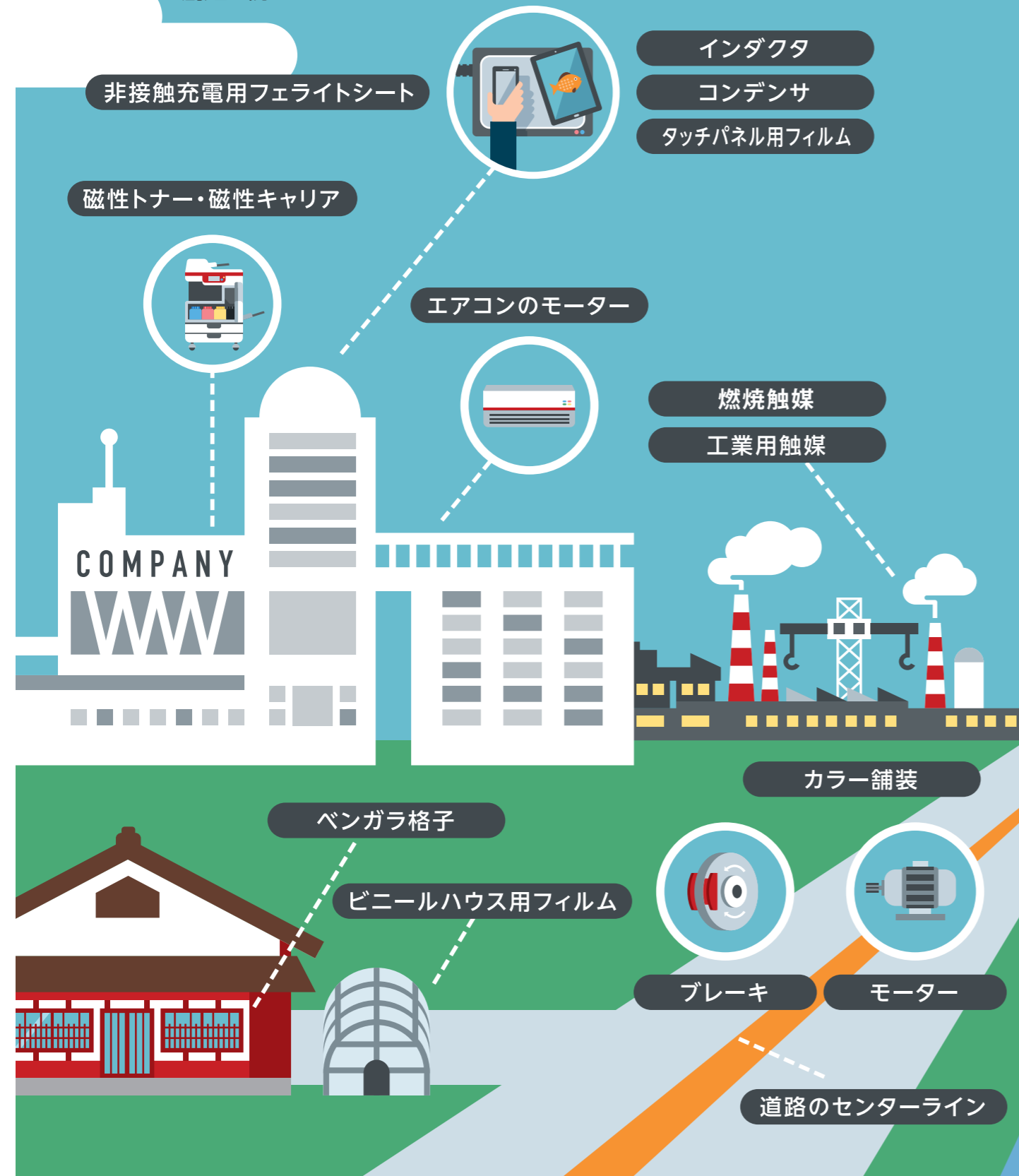
◆Device 電子部品用材料事業 ・自動車モーター用磁石材料 ・家電モーター用磁石材料 ・各種センサー用磁石材料 ・電子部品 (インダクタ、コンデンサ)	◆EMC 電磁対策材料事業 ・スマートフォン製品用部品 ・ウェアラブル製品用部品 ・電波吸収材	◆Imaging 電子印刷材料事業 ・モノクロプリンタ用トナー材 ・カラー複写機用キャリア ・プリンタ・複写機用磁石材料
◆Ecology 環境機能材料事業 ・鉛フリー材料 (塩ビ安定剤、道路標示材) ・燃焼触媒 ・汚染土壌改良材	◆Digital デジタル記録材料事業 ・コンピュータデジタル記録テープ用磁性材料 ・磁気カード用磁性材料	◆Color 顔料事業 ・自動車用、事務機器用顔料 ・建築・建材用顔料 ・船底用防錆顔料
◆Battery 電池材料事業 ・電気自動車用電池材料		

1980	1990	2000	2010
トナー材料	コンピュータデジタル記録テープ	湿式合成法を鉄以外の材料へ展開	ハイドロタルサイト
1984年 大竹工場にてフェライト材料の生産開始	1988年 小野田工場の電子印刷用着色材料の専用生産設備を新設	1989年 小野田工場にメタルテープ用磁性粉末製造設備を新設	1999年 小野田工場にハイドロタルサイトの製造設備を新設
1994年 ダイオキシン抑制燃焼触媒の開発	1996年 大竹工場にカラー用トナー用キャリア材製造工程を新設	2003年 小野田工場にリチウムイオン二次電池正極材料生産設備を新設	2004年 小野田工場にチタン酸バリウムの製造設備を新設
マグネット、磁石	磁気切符、磁気カード	ダイオキシン抑制触媒の使用例(ゴミ袋、緩衝材)	カラー用トナー用キャリア
		金属対応ICタグ	フェライトシート

経営理念とCSR方針
事業内容と歴史
身近な製品群
「こあじざつ」特集I
特集II
特集III
経営
事業トピックス
品質
環境安全
社会
組織図・事業拠点

身近な戸田工業グループの製品群

化学製品は私たちの身の回りで様々な形で使われています。
戸田工業グループの素材も自動車、家電製品、情報機器などの小型化、軽量化、高性能化に貢献しています。
【素材のチカラを未来のタカラに】を合言葉に、最先端の素材力で新たな価値を創造し続けます。



戸田工業グループは、磁器の絵付けやベンガラ格子などで知られる酸化鉄着色顔料の製造会社として江戸時代末期の1823年に創業した化学素材メーカーです。現在では、自動車や通信機器分野で、高機能モーター用の磁石材料や非接触充電用フェライトシート、MLCC用チタン酸バリウムなど、高度な電子化に必須の部品や材料を提供しています。

創業200年の節目まであと3年となりました。新型コロナウイルスによる世界的な不況など、我々を取り巻く事業環境は常に大きな変化と隣り合せて先行き不透明な状況ではありますが、戸田工業グループでは、役員・従業員が一致団結して、市場のニーズを先取りした製品・サービスを提供すべく活動しております。

CSRの活動としては、SDGsの理念に則り、人類の豊かな発展のために一企業として果たすべき役割を常に意識した取組みを続けております。後のページでも取り上げますが、「水処理用吸着材」や「カーボンナノチューブ」など、いわゆる環境材料の事業化にもますます力を入れています。また、従業員にとって働きやすい環境やしぐみの提供、コーポレート・ガバナンスの強化など、企業として、社会で生き残っていくための強い体質を身につける活動も強化しています。

今後とも、ステークホルダーの皆様とともに生々発展できるよう邁進してまいりますので、ご理解とご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

代表取締役社長執行役員

たからぎ

寶來茂



レスポンシブル・ケアとは？

化学工業界では、化学物質を扱うそれぞれの企業が化学物質の開発から製造、物流、使用、最終消費を経て廃棄・リサイクルに至る全ての過程において、自主的に「環境・安全・健康」を確保し、活動の成果を公表し、社会との対話・コミュニケーションを行う活動を展開しています。

この活動を『レスポンシブル・ケア (Responsible Care)』と呼んでいます。



地域対話

戸田工業グループの小野田事業所、大竹事業所では、地域社会に対して活動成果を公表、対話するために、日本化学工業協会RC委員会の地域対話へ参加しました。行政関係者、教育関係者、業界団体、市民団体、地域自治会、近隣企業、会員企業が参加され、基調講演、企業RC取組み報告、質疑応答、交流会などが行われました。事前にアンケートを配布し、地域のご意見、ご要望にお答えするかたちで地域対話は進行されました。

地域のご要望に沿った『環境・安全・健康』を確保する活動と地域貢献活動を今後も進めてまいります。

◆山口西地区地域対話 小野田事業所◆

日付：2019年11月8日
場所：ANAクラウンプラザホテル宇部
会員協賛企業：7社
参加者：総勢108名



企業資料展示ブース



会場風景

<企業への要望>

- ① 震災時の防災対応
- ② プラント事故の防止
- ③ 環境汚染防止の強化
- ④ 地域とのコミュニケーション
- ⑤ 地域イベントへの積極的参加

<情報開示>

山口西地区地域対話、岩国・大竹地区地域対話の予稿集をホームページで公開しています。



◆岩国・大竹地区地域対話 大竹事業所◆

日付：2020年2月14日
場所：岩国国際観光ホテル
会員協賛企業：7社
参加者：総勢100名



会場受付



質疑応答



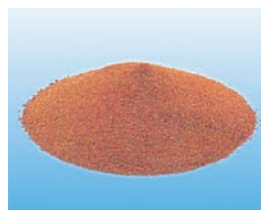
会場風景

戸田工業グループは、温室効果ガス削減および水質浄化対策などに係る製品・技術・サービスの開発・実用化を通じて、地球環境保全・改善への積極的取り組みを行い、SDGs達成に向けた活動を推進していきます。

温室効果ガス削減



ライフサイクルによる **15kt** 以上のCO₂を低減 ※2025年マイルストーン

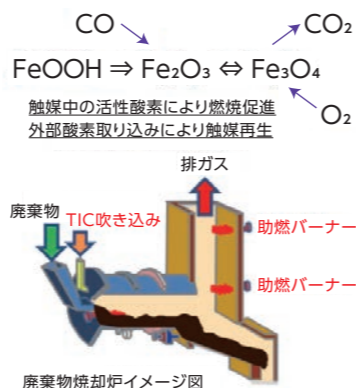


TIC粉体

◆酸化鉄燃焼触媒TIC®

酸化鉄には元来、反応する相手物質を酸化(燃焼)させる触媒活性があります。その触媒活性を最大限に引き出したものがTICです。TICを廃棄物焼却炉に供給することで、廃棄物の完全燃焼を促進する助燃剤の働きをします。

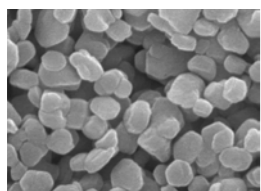
この働きにより、廃棄物燃焼時に使用する助燃バーナーの使用を抑制します。2025年には国内外へ500tのTICを提供することで助燃バーナー使用量低減分に相当する15kt以上のCO₂発生抑制を目標としています。



廃棄物焼却炉イメージ図

大気における **1kt** 以上のCO₂を吸着・固定・削減 ※2025年マイルストーン

◆農業用ポリオレフィン保温材

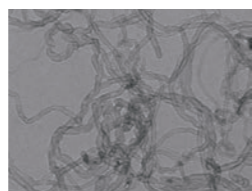


ハイドロタルサイト電子顕微鏡写真

農業用ポリオレフィンフィルム保温材に用いられるハイドロタルサイトはMg₆Al₂(OH)₁₆CO₃・4H₂Oの化学式で表され、構造中に炭酸イオン

を持つことで5~25μmの波長の赤外線吸収性能が高くなり、農業用ビニールハウス内の温度低下を防ぎます。戸田工業では、CO₂を含むボイラー排ガスなどを利用してハイドロタルサイトを合成することで大気中にCO₂を放出せず、製品内に固定化しています。2025年のハイドロタルサイト販売量は6,000tを目標としており、その際のCO₂固定化量は550tとなります。

◆カーボンナノチューブ



CNT電子顕微鏡写真

高活性鉄系触媒を用いてDMR (Direct Methane Reforming) 反応を行うことで、高機能なカーボンナノチューブ(CNT)とCO₂フリーの高濃度水素を同時に得ることができます。

このDMR反応技術は、低炭素社会に貢献可能な技術であり、早期実用化を目指しています。2025年の国内外へのCNT提供量は年間400t、それに伴う水素生産量は年間120tを目標としており、その際のメタン使用量に基づくCO₂削減量は約860tとなります。



安全な水の提供



発展途上国を対象に **500万人** 以上に安全な水を提供 ※2025年マイルストーン



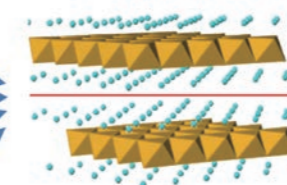
ハイドロタルサイト粉体

◆水処理用吸着材

水中のヒ素、ホウ素、セレン、フッ素などの有害イオンの吸着除去処理材として、Mg-Al系ハイドロタルサイトおよび鉄系化合物を製品化しています。

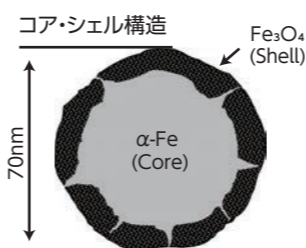
Mg-Al系ハイドロタルサイトは、有害イオンと自身の無害な炭酸イオンなどをインターカレーションという化学反応で交換することにより、水中の有害イオンを取り込み強固に固定化、除去します。現在、発展途上国向けにヒ素に汚染された水を安全な飲料水へ浄化すべく開発中であり、2025年には500万人以上の飲料水(ハイドロタルサイト1,000t)の提供を計画しています。

ヒ素[AsO₃³⁻, AsO₄³⁻]
ホウ素[B(OH)₄⁻]
セレン[SeO₃²⁻, SeO₄²⁻]
その他[F⁻, HPO₄²⁻, SO₄²⁻など]

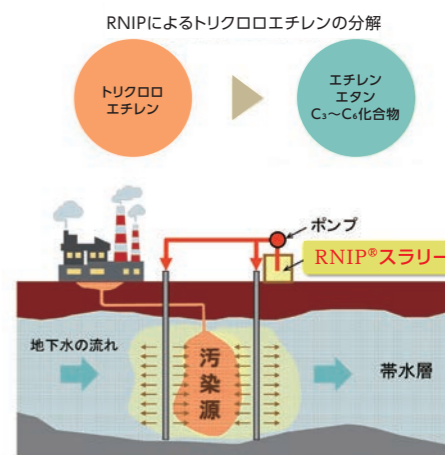


水処理用吸着材カートリッジユニット

◆土壌・地下水浄化材RNIP®



RNIPは、平均粒径70nmのコア(α-Fe)・シェル(Fe₃O₄)構造を有するナノ鉄複合粒子です。汚染された土壌に注入することでRNIPの優れた還元性能により、土壌・地下水中の揮発性有機塩素化合物を急速分解(水素化脱塩素)して浄化します。ナノ粒子なのでスラリーは土壌への拡散性が非常に良く、環境負荷を最小限に抑えつつ深層汚染を原位置で短期浄化できます。さらに、土壌・地下水中の可溶性重金属もフェライト化反応で不溶化します。



RNIPによる原位置浄化プロセス概要

◆重金属不溶化材AMH



AMH粉体

AMHは、環境に優しい無機系酸化物から構成されており、汚染土壌中の有害なヒ素、鉛、フッ素などの可溶性重金属類を固定・不溶化し、地下水への溶出を抑制します。

人財開発部モノづくり推進室では、安全と安心を最優先することから、2014年度に安全体感研修の道場を小野田事業所に開設し運営してきました。そして、その経験をベースに、安全も含んだ基盤全体の強化につながる学びの拠点を、「モノづくり道場」として同事業所内に2020年1月23日に開設いたしました。

創業200年を超えて輝く企業であり続けるために、今このタイミングで、改めて“モノづくり”の基盤の強化を進める必要があります。環境変化の激しい現代において重要なのは、原理原則を知って、現状を見つめ直し、モノづくりの改善と革新を皆が同じ目線で考え、進めることであり、これをコンセプトとしています。



Toda Spirits

= より良い未来を創造するモノづくり =

- ◆安全と安心を優先する **モノづくり**
- ◆顧客と取引先の信頼と満足を目指す **モノづくり**
- ◆一人ひとりの力で改善に挑戦する **モノづくり**
- ◆独創性と市場性を創造する **モノづくり**
- ◆品質の安定・再現、効率を目指す **モノづくり**
- ◆環境に配慮し、グローバルに展開する **モノづくり**

開所にあたって、戸田工業グループのモノづくりとは何かを今一度見直しました。理念や経営方針、それを実践する指針に加え、戸田のモノづくりの原点をまとめ、会社として「Toda Spirits」を新たに掲げました。

この「Toda Spirits」に基づいて、各層において大切な基本を知り、職場の問題に気付き、一人ひとりの力で「改善」ができる人財を育てるのがモノづくり道場の使命です。安全、5S、TQMをベースとして、多岐にわたる分野において、この道場で、見て、感じていただきながら、共に学んでいきたいと思っております。

開所時には、経営層を対象に“経営的視点によるモノづくり”の研修を、2月には、“品質の考え方”の研修を実施しました。3月以降の研修は、コロナ禍の影響で計画通りに実施できていませんでしたが、研修内容をより充実させる期間と捉え、準備をしてきました。コロナ前の状態に完全には戻れませんが、3密に配慮しながら、7月から再開しています。

これからも「顧客と取引先の信頼と満足を目指すモノづくり」をコンセプトに人財育成を行ってまいります。

▼開所式での研修風景



▲モノづくり道場入り口

◆相澤顧問からのコメント◆

2019年から「モノづくり基盤強化」担当顧問として、経営層からのご指導・ご支援をいただきながら、人財開発部の方々と一緒に、関係部門からのアドバイスをいただき「モノづくり道場」を創り上げるために取り組んでいます。



当社へ入社する前は、自動車部品メーカーの開発/生産・生技/企画分野および海外事業体で「グローバル競争力確立」を目指して約40年間従事しました。その間、トヨタ生産調査部の方々から、トヨタ生産方式(TPS)の考え方を直接ご指導いただいた経験が「モノづくり」強化を考える上での原点となっています。

当社は化学メーカーですので、自動車・部品メーカーと生産プロセスが大きく異なりますが、「モノづくり」の基本的な考え方は同じであると確信しています。当社は2023年に創業200年を迎えますが、新たな価値創造による成長戦略を展開するためには、まずは現有ビジネスの「コア技術」を更に深化させ、継続的な改善と合わせて生産・技術革新を図ることが重要であります。それを具現化するための「源泉」は、「人づくり」であると確信しています。

今年1月に開設した“モノづくり道場”は、やっとスタート地点に立った段階ですが、「モノづくり」に関わる全ての領域の方々を対象にした体系的な階層別教育プログラムの拡充を目指して取り組んでいきたいと思っております。

現在、教育プログラム内容を検討していますが、受講される方が「実践的に活用出来る手法・考え方」を学ぶことができるような教材を工夫しています。そして、教える側は今までの自分の経験・知識を整理し、原理原則に基づき見直しをすることができる良い機会になると考えます。また、先人が残した技術・ノウハウをどのように伝承するかも大きな課題ですので、全社レベルでの取り組みへ発展させることを提案しています。

世界をリードしてきた日本のモノづくりは、少子高齢化問題や高コスト構造、更には規制強化や保護により、優位性を失ったと懸念されています。ビジネス環境も大きく変化していますので、「グローバルで勝てるモノづくり」を追求することを経営上の最重要テーマと捉えて取り組んでいます。

そして、日本は「技術の発信基地」として常にリードすることが求められますが、ダイバーシティ・マネジメントも視野に入れた「グローバルな人づくり」を目指してまいります。



▲研修風景

▼グループワーク



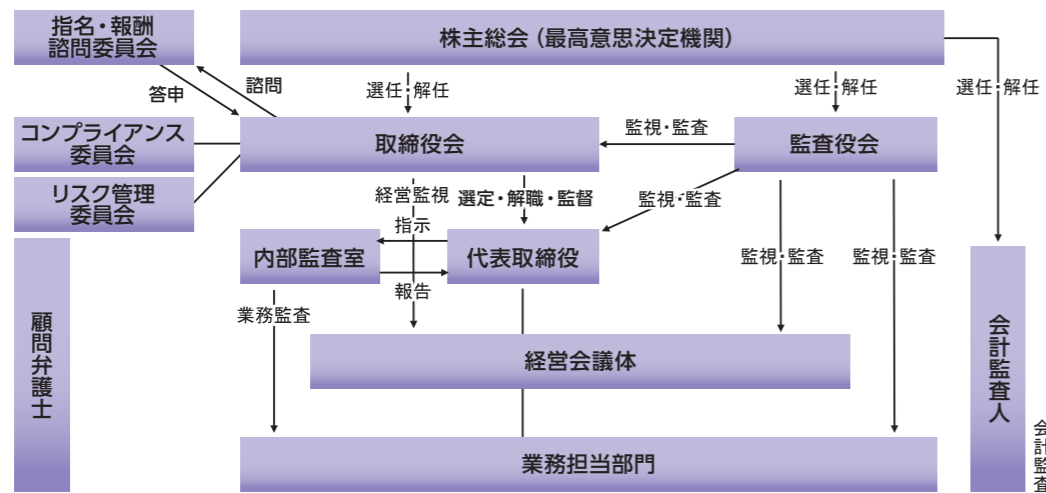
1) コーポレート・ガバナンス

◆取組み体制

戸田工業は、株主総会を最高意思決定機関とし、重要な業務執行に関する意思決定機関である取締役会および業務執行を監督する機関である監査役会を設置するガバナンス体制を構築しています。

取締役会は、月1回の取締役会のみならず、業務上の必要に応じて臨時取締役会を開催し、迅速かつ的確な意思決定を実現しています。また、3名の社外取締役を活用することにより、取締役による相互の職務執行の監視、監督をより実効的なものにしていきます。さらに、独立性の高い社外監査役3名を含む監査役会による取締役会、その他の重要な会議に対する監査の実施により、業務執行に対する客観性および中立性の高い監視、監督体制を確保しています。

また取締役および執行役員の指名・報酬などに関する手続きの公正性・透明性・客観性を強化し、コーポレート・ガバナンスの充実を図ることを目的として、2020年4月24日開催の取締役会において、取締役会の任意の諮問機関として指名・報酬諮問委員会の設置することを決議しました。現在、取締役会の諮問に応じて、取締役および執行役員の選任・解任に関する事項や報酬に関する事項などについて審議し、取締役会への答申を行っております。



コーポレート・ガバナンス体制図

2) コンプライアンス

◆コンプライアンス体制

戸田工業グループは、コンプライアンス委員会の設置、コンプライアンス行動規範およびコンプライアンス推進規程の制定運用、コンプライアンス教育の実施などを通じて、グループ全体のコンプライアンスの維持および向上に取り組んでいます。

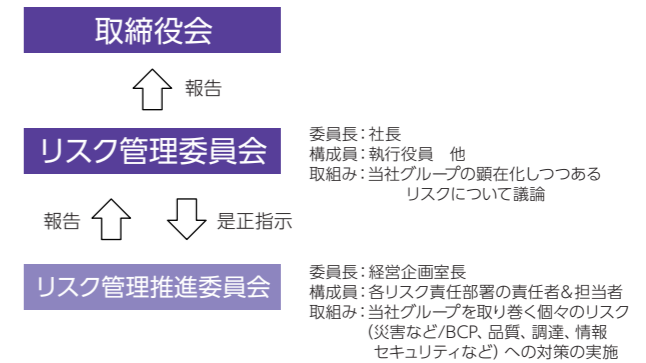
近年は、特に情報セキュリティに関し、技術的・物理的対策だけでなく、規程改定やグループ会社および協力会社の従業員などに対する教育による人的・組織的対策の強化を進めてまいりました。成果の一つとして、2019年末から世界中に蔓延した新型コロナウイルス感染症により、外出自粛やテレワークが推奨される中、強化された情報セキュリティを基礎とした、テレワーク環境を提供することにより、状況の深刻な東京OFFICEから在宅勤務を実施し、順次、他の事業所においても在宅勤務が可能な職場を増やしてきております。

今後も、多様化する社会環境において、実行性のあるコンプライアンスの強化を行ってまいります。

3) リスク管理

◆リスク管理体制

戸田工業グループでは、代表取締役社長執行役員を委員長として、執行役員を中心に構成するリスク管理委員会を設置し、当社グループの顕在化しつつあるリスクについて定期的に議論しています。また、2019年度以降、当社グループを取り巻く個々のリスク（災害など/BCP、品質、調達、情報セキュリティなど）については、責任部署を定め、当該責任部署において基本計画の策定、対策の実施、評価および改善を行う取組みを進めております。各リスク責任部署の責任者および担当者で構成するリスク管理推進委員会は、それぞれの活動の進捗や課題を共有し、リスク管理委員会に報告します。当該報告を受けたリスク管理委員会は、適宜是正措置を行い、これらリスク管理活動について取締役会に報告を行います。それにより、取締役会は、戸田工業グループ全体のリスクを網羅的、継続的に監視する体制の整備を進めています。



◆2019年度の取組み

◆基本計画の策定◆

2019年度においては、事業所の複数の部署の代表が集まったワークショップや、部署のメンバー全員でのミーティングなどを通じて、責任部署毎に「リスクの洗い出し」と「リスク評価」を行い、「基本計画」を策定しました。これらの活動を通じて対応すべきリスクの漏れを減らし、リスク評価のすり合わせができてと感じています。2020年度においては、基本計画に沿って対策を実施し、リスクの軽減活動を進めてまいります。



リスクの洗い出しを行ったワークショップの様子

◆リスク対策本部設置訓練◆

戸田工業グループは、リスクが発生または顕在化したときは、直ちにリスク対策本部を設置し、対応することを「リスク管理規程」に定めています。2019年度は、BCP/防災活動として毎年実施している大竹事業所（大竹市）の緊急時対応訓練に合わせて、リスク対策本部設置訓練を本社（広島市）で行いました。大竹で震度6強の地震が発生した想定において、被災した大竹事業所では目の前の人命救助や消火活動などが最優先となるため、本社（オフィスにおいては被害なしの想定）にリスク対策本部を設置し、全社の安否確認や被害状況の把握と対策の検討、広報活動などを行う訓練を行いました。



本社に設置されたリスク対策本部

大竹事業所（左）と本社（右）間で随時被害状況の確認や支援要請などの様子

1) 事業の概況と取組み

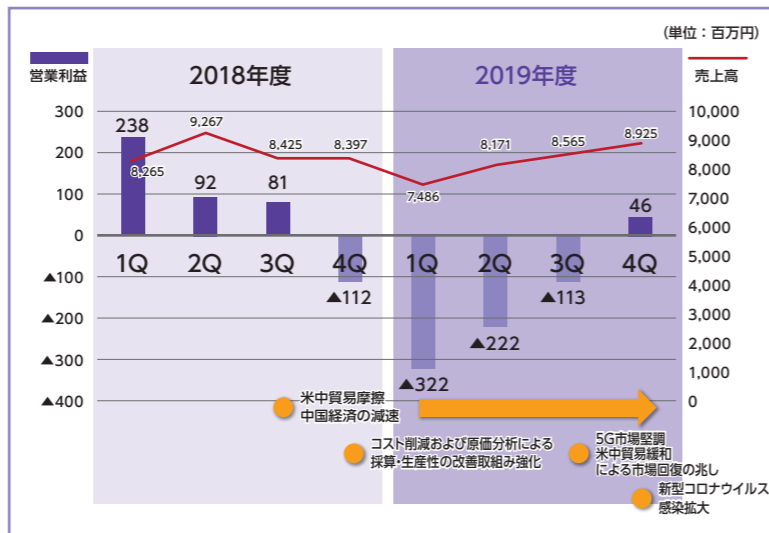
◆事業の取組方針

戸田工業グループは、「事業活動を通じて、社会的な課題解決を支援する」ことを使命とし、社会の課題、時代の最先端ニーズに応えることで成長してまいりました。近年では素材を通じて、自動車やエレクトロニクスなど、多くの分野との密接な関係により産業の基盤を支えています。また、これからの社会環境に向けて、次世代自動車の指針CASEに沿った進化や、第5世代移動通信システム(5G)に代表される情報通信分野の急速な進歩など、大きな変化が始まっています。その中で私たちは、お客様の課題を解決するだけでなく、私たち自身の課題にも向き合い、そして将来直面する課題を予測し、素材のチカラ、私たちのチカラ、パートナーのチカラを一つにして解決するとともに、新たな価値を創造してまいります。

2020年1月には、より当社の強みを伸ばしていくため、モノづくりの原点をまとめた「Toda Spirits」を策定しました。今後一層社会に貢献する事業活動を行ってまいります。

◆2019年度(2019年4月1日～2020年3月31日) 事業の概況

2019年度の事業環境は、米中間の貿易摩擦、中国経済の減速、また英国のEU離脱問題などを背景に不透明な状況で経過し、さらに2019年末以降、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、世界経済の減速懸念は一層高まる状況となりました。当社グループにおきましては、リチウムイオン二次電池市場拡大に伴う需要の増加により、電池関連材料の売上が伸びているものの、中国をはじめとする世界経済の減速の影響を受け、基幹事業である磁石材料および着色材料の国内外の需要が低迷したことから、売上高は33,147百万円、営業損失611百万円、経常損失は1,307百万円、親会社株主に帰属する当期純損失5,285百万円となりました。



売上高・営業利益推移 (2018年～2019年度)

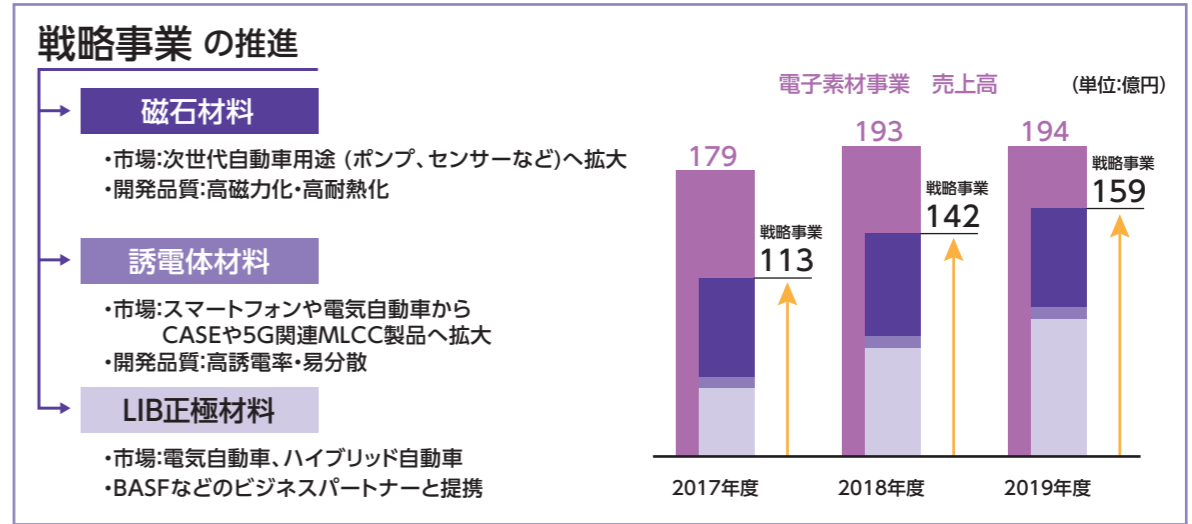
◆2020年度(2020年4月1日～2021年3月31日)の取組み

2020年度の事業環境は、新型コロナウイルス感染症により、世界経済、日本経済ともに大きな影響を受けており、各国では、大規模な景気対策などの施策を実施しつつありますが、2020年度の見通しは、2019年度よりさらに厳しい状況が見込まれます。また世界的な経済およびサプライチェーンの停滞、最終製品を生産しているお客様の稼働が予定より遅れていることなどから、当社グループの生産拠点の稼働率は高まっておりません。当社はこの影響を軽減すべく対策に取り組んでおりますが、今後も急速に変化する状況に応じて必要な対策を適宜行ってまいります。

また上の図のとおり、2019年度上期においては、米中貿易摩擦の影響で経済が停滞し、電子素材市場においては、調整局面により需要が鈍化しておりましたが、2019年度下期においては、5G関連製品やスマートフォンを中心とした需要回復の兆しがみられており、5Gの普及の加速や、自動車、家電、産業機器分野のIoT化進展などにより、中期的には市場の拡大が見込まれる状況になっていました。今般の新型コロナウイルス感染拡大の影響により、需要回復は遅れておりますが、影響の沈静化後は、回復に向かうことを見込んでおり、需要拡大に適切に対応していけるよう生産体制を整えてまいります。そして「ビジネスの拡大」、「高収益体質の強化」、「経営基盤の充実」をキーワードに、業績のさらなる向上に向けた活動を進めてまいります。

◆主な取組み:戦略事業の取組み◆

電子素材事業に含まれる「リチウムイオン電池(LIB)用正極材料」「磁石材料」「誘電体材料」の3事業を戦略事業と定め、取組みの強化を進めてまいります。



電子素材事業に対する戦略事業の売上高推移(2017年度～2019年度)

◆主な取組み:持続可能な開発目標(SDGs)への取組み◆

「2030年までに国際社会が達成すべき、経済・社会・環境に関する持続可能な開発目標(SDGs)」の理念に則り、当社グループ全体で、事業およびガバナンスを通じてSDGsの実現に向けた活動を進めるべく、2019年5月に「戸田工業グループ 環境ビジョン2033」を策定し、具体的な数値目標を掲げて環境保全活動に取り組んでおります。環境ビジョン2033において掲げる環境経営5本柱の「環境調和型商品、技術の提供」では酸化鉄燃焼触媒TIC®や土壌・地下水浄化材RNIP®などを製造・販売しております。また「循環型社会形成への取組み」や「産業廃棄物の有効活用」としては、長年の経験を活かし、無機系を中心に資源再利用にも積極的に取り組んでおります。

戸田工業グループ 環境ビジョン2033

環境経営5本柱

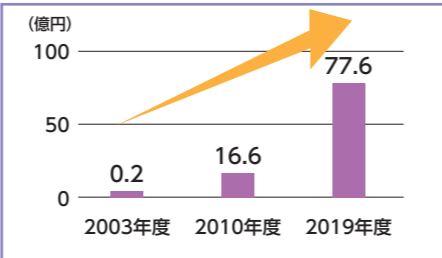
(1)生物多様性への取組み	生物多様性行動指針
(2)温室効果ガスの削減	脱炭素社会を目指して
(3)環境調和型商品、技術の提供	2033年までに商品・技術を100%優:環境調和型へ
(4)循環型社会形成への取組み	3Rの取組みを総合的に推進
(5)産業廃棄物の有効活用	産業廃棄物の削減と再資源化を継続

2) 拡大する中国事業

中国では主に電子部品用材料事業と顔料事業を展開しており、電子部品用材料事業の会社としては戸田塑磁材料(浙江)有限公司・浙江東磁戸田磁業有限公司・戸田麦格昆磁磁性材料(天津)有限公司、戸田磁鉄(深圳)有限公司の4社、顔料事業の会社は戸田聯合実業(浙江)有限公司・浙江華源顔料股份有限公司の2社の他に、商社として戸田国際貿易(上海)有限公司1社の体制で運営を行っています。

各社、独自の販路を拡大しつつ、グループ間相互取引によるグループ内の補完機能も担っており、中国での事業規模は、2003年に拠点を設けて本格的に事業展開を始めて以降、年を追うごとに事業分野・関連会社数を増やし、初年度売上は0.2億円(連結消去前の連結子会社分単純合計)だったものが、2010年度には16.6億円、2019年度には77.6億円と順調に拡大してきています。

以下、各拠点ごとに事業内容・地域との交流事例などをご紹介します。



中国連結子会社(※)の売上規模
※以下の5社
戸田塑磁材料(浙江)有限公司
戸田麦格昆磁磁性材料(天津)有限公司
戸田磁鉄(深圳)有限公司
戸田聯合実業(浙江)有限公司
戸田国際貿易(上海)有限公司

◆戸田麦格昆磁磁性材料(天津)有限公司

戸田工業とマグネクエンチ社との合併により、2007年に設立されました。天津市北西部の武清区に位置しており、主に射出成型用の希土類コンパウンドを製造・販売しております。



～安全方針～
2007年の会社設立より、「安全第一、予防主義、総合管理、全員参加、環境改善、健康管理、科学的な管理運用、持続改善」の安全方針を掲げています。毎年、第三者専門機関に依頼し会社全体の監査・評価を受け、また全社員参加の各種安全訓練を行っています。



◆戸田塑磁材料(浙江)有限公司

2003年9月の開業以来、戸田工業グループの電子素材事業の一翼を担う磁性コンパウンドの会社です。各種モーター、センサー用の磁石材料として、家電製品、自動車製品を始めとする、様々な分野で、社会に貢献しております。変化の激しい時代だからこそ、自らも柔軟に変化し、お客様のご要望にお応えしてまいります。

～地域交流～



木彫りの町である東陽市が開催した「東陽木彫村ウォーキング大会」に弊社従業員も参加しました。

◆浙江東磁戸田磁業有限公司

浙江東磁戸田磁業有限公司は、戸田工業が50%出資している合併会社です。フェライト磁性粉の製造販売を行っており、日中双方の出資者グループ各社への販売の他、独自の顧客と取引を行っています。

◆戸田聯合実業(浙江)有限公司

戸田聯合実業(浙江)有限公司は、グループ4社で顔料およびフレコンの製造販売を行っています。一部、戸田工業グループ各社と顔料の相互取引もありますが、大部分は独自の販路で世界各地、中国国内との取引を行っています。

～地域貢献～



写真は2020年4月の清明節の際に山林の除草活動へ参加した際のものです。

◆戸田国際貿易(上海)有限公司

①日本から、顔料、磁石材、機能材など戸田製品の輸入販売、②中国から原料、設備などの輸出、③環境設備関連の3つの業務を行っています。中国での窓口として利害関係者の皆さまの“モノづくり”を支援してまいります。



◆浙江華源顔料股份有限公司

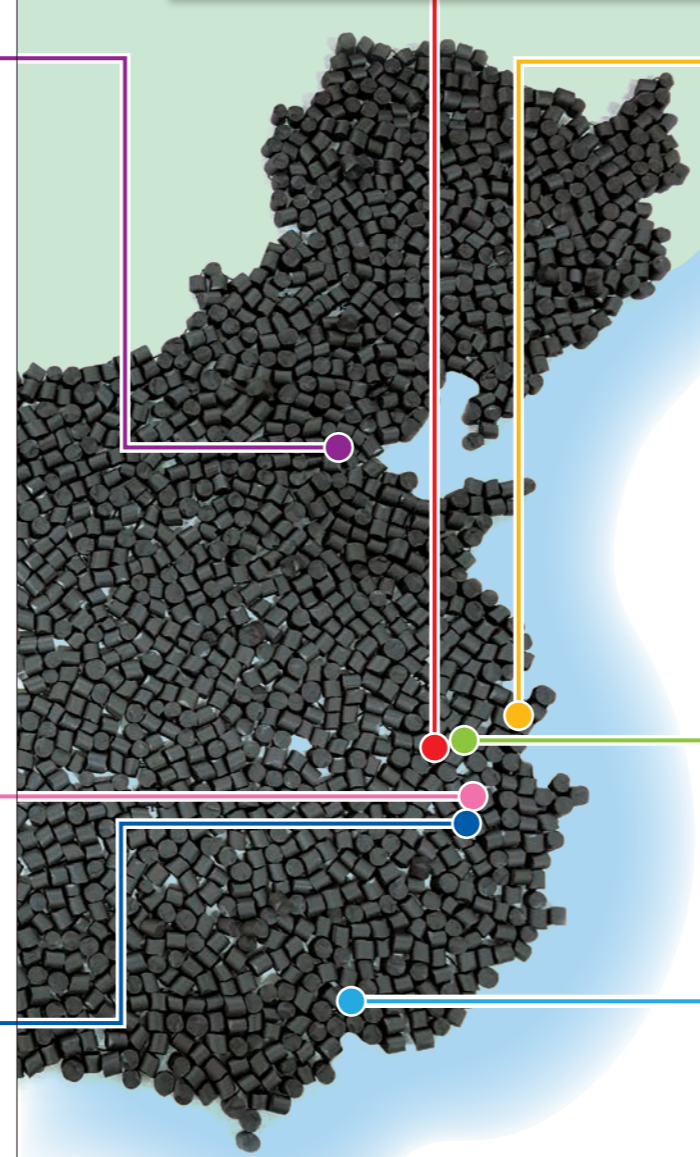
浙江華源顔料有限公司は、戸田工業が22.5%出資している合併会社です。顔料の製造販売を行っており、戸田工業グループ各社とも顔料の相互取引を行っています。

◆戸田磁鉄(深圳)有限公司

戸田磁鉄(深圳)有限公司では、主としてファンモーターに使用されるゴム磁石を生産しており、生産量は60トン/月程度です。混練→分出→圧延→切断という工程で、現場では20名強の従業員が勤務しています。販売先は、殆どが中国国内の日系企業です。

～地域交流～

地域交流の一環として、深圳日本人会主催のソフトボールリーグに参加しています。



1) 製品品質向上のために

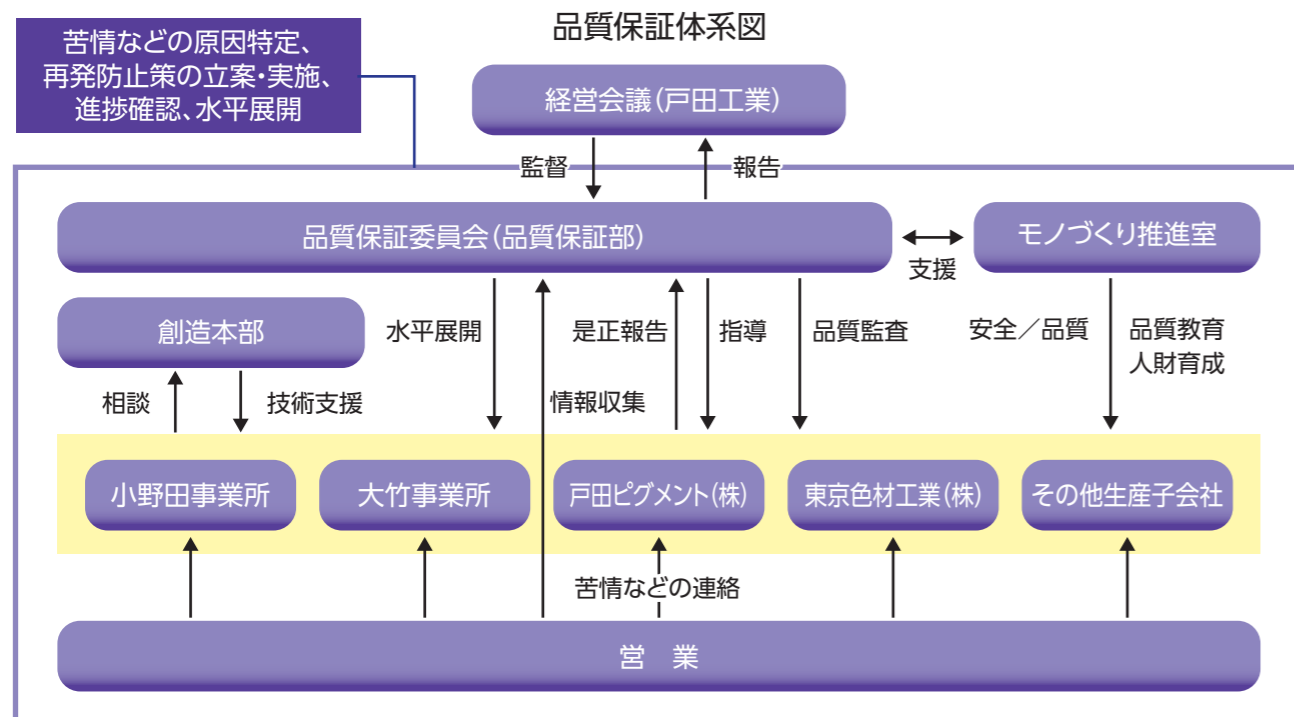
戸田工業グループでは、6つのモノづくりの精神からなるToda Spiritsの下、「継続的改善活動を展開し、顧客の信頼と満足を得る品質を提供する」という品質方針を定め、以下の品質保証活動を推進しています。推進主体である品質保証部は、これらの品質保証活動を中立的な立場でより実効的に推進するため、営業・開発・製造から独立した、社長直轄の組織となっています。

品質保証部は品質委員会を主催し、戸田工業グループ各事業所の品質保証部門と情報を共有し、品質問題を全社で解決する体制を構築しております。戸田工業グループの製造部門に対する品質監査を行うほか、営業部門に届けられるお客様からの苦情・クレーム情報を迅速に把握し、重要事案へ即応するとともに、個々の苦情・クレームなどに対する原因特定、再発防止の立案・実施、検証および水平展開を現場目線で行っています。

2020年度は、リスク管理強化による未然防止活動を推進するとともに、「モノづくりを通じた人づくり」の観点から、「人材開発部」に設置した「モノづくり推進室」と連携して、人材育成に取り組み、品質保証活動を深化させていきます。

2) 品質保証活動

1. ISO9001シリーズの要求事項の遵守を確認するとともに、品質保証システムのレベルアップを目的とした品質監査を実施しています。
2. 法規制およびその他の要求事項の遵守状況を確認しています。
3. 戸田工業グループの製品の品質向上の為、品質の分析、関係部門に対する改善指導および定期的な品質に関する検討会議（品質保証委員会）を行う事により、総合的な品質改善を推進しています。
4. 海外事業会社の品質保証体制強化に取り組んでいます。
5. 現場力を高めるための、人材教育を推進しています。



◆マネジメントシステムの導入状況

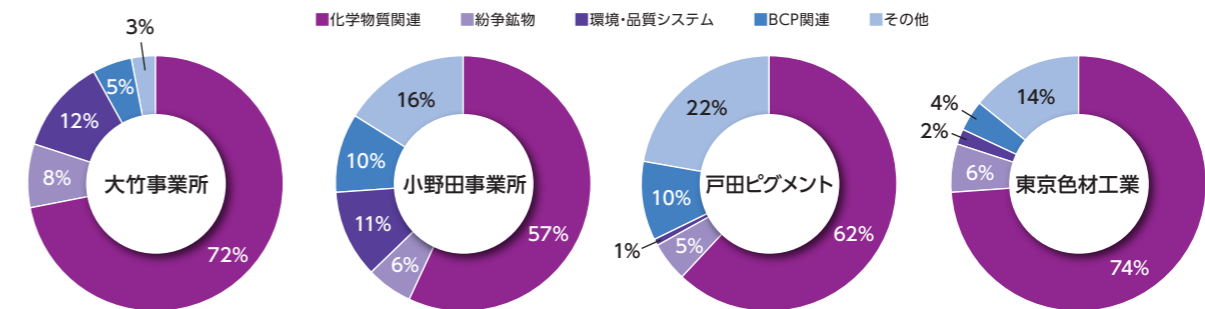
戸田工業グループでは、以下のマネジメントシステムを認証取得し、事業活動におけるPDCAサイクルを回しています。

ISO9001 ISO14001 ISO45001	ISO9001 ISO14001	ISO9001
小野田事業所 大竹事業所	戸田ピグメント株式会社 戸田フェライトコリアCO., LTD. 戸田イスCORPORATION 戸田麦格昆磁磁性材料(天津)有限公司 戸田塑磁材料(浙江)有限公司 浙江東磁戸田磁業有限公司 浙江聯合顔料有限公司 戸田アメリカIncorporated 戸田工業アジア(タイランド)Co., Ltd.	戸田磁鉄(深圳)有限公司 大竹創造センター:商品開発G
		ISO14001
		大竹創造センター

3) お客様からの問合せ状況

戸田工業グループは、製品品質の維持向上を目的として、製品やCSR活動などに関するお客様からのお問合せに対して、迅速かつ丁寧にご回答することを心がけています。

その中で洗い出された課題に対しては、担当する部署と協力し、迅速な解決に向けて日夜取り組んでいます。2019年度も下表のとおり化学物質関連のお問合せを中心に、日々4件程度お寄せいただいたお客様からのお問合せに真摯に対応させていただいております。



事業所別お客様お問合せ内容内訳

4) 小集団活動

戸田工業グループの各事業所では「安全なくして効率なし。品質なくして信頼なし。変革(改善)なくして発展なし。」のスローガンのもとで、課題の達成に向け協力会社と協働して小集団活動を積極的に展開しています。

また、全員で問題点を共有化し、コミュニケーションを活発にするという目的のもと、2016年度より各事業所から“5Sモデル”活動を行う小集団を選出し、事業所内の模範となるべく5S活動も推進しています。

活動テーマの範囲を生産性改善・品質向上はもとより環境保全・安全維持にも広げ、この活動を通して各人の意識・知識を向上させ、従業員同士の信頼関係を醸成するとともに、発表会を通じて異なる職場間のノウハウを共有することにつながっています。

1) 環境負荷の低減

◆環境基本方針

戸田工業グループは、ISO14000シリーズによる環境管理を行い、環境保全は我々地球市民に課せられた使命と認識するのみならず、環境保全活動と経営活動を同軸であると考え、レスポンスブル・ケアによる地域住民への積極的な情報公開とコミュニケーションを行うと共に、戸田工業の有るべき姿として策定した環境ビジョン2033に、自ら責任を持ち、グループをあげてその活動に取り組みます。

◆環境ビジョン2033の推進

戸田工業グループは、会社設立100年の節目となる2033年に向け『2033年ありたき姿』を役員、従業員でサステナビリティ(持続可能性)4原則の視点から討議を行い、『環境ビジョン2033』を策定しました。社長直轄のCSR・環境安全部が統括する環境委員会(国内グループ会社で構成)が『環境ビジョン2033』を推進しています。

◆温室効果ガスの削減◆

戸田工業グループは、環境ビジョン2033で温室効果ガスの削減に関して以下の目標を掲げています。(目標年度2033年)

- ・エネルギー原単位 20%削減(2013年対比)
- ・再生可能エネルギー 10%導入
- ・GHG排出量 30%削減(2013年対比)
- ・輸送、通勤時のCO₂排出量 30%削減(2013年対比)

また、小野田事業所では、原料となる高純度炭酸ソーダをボイラー排ガスと苛性ソーダから製造する技術(特許第3114775号)を自社開発し、1993年に炭酸ソーダ製造プラントを建設しました。能力的には、二酸化炭素の排出量を最大3,600トン/年削減可能です。現在、小野田事業所内で使用する高純度炭酸ソーダを無人全自動運転で製造しています。

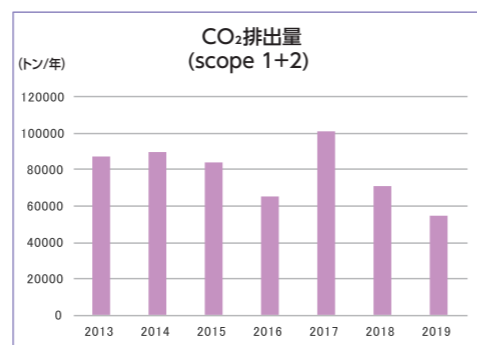
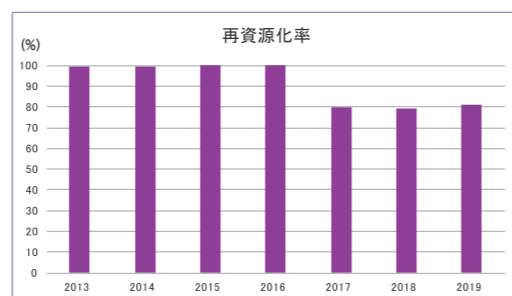
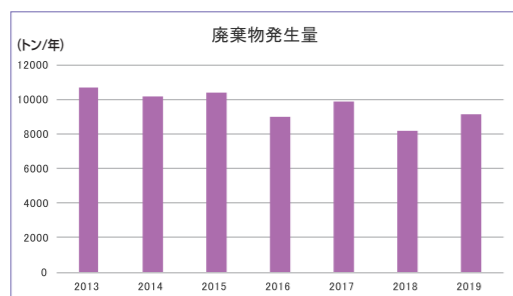
反応速度解析、シミュレーションプログラムにより高精度の運転予測が可能であり、最適化された条件で運転を行っています。



◆産業廃棄物の有効活用◆

戸田工業グループは、環境ビジョン2033で産業廃棄物に関して以下の目標を掲げています。産業廃棄物の再資源化により、最終処分(埋立て処分)量ゼロを達成します。(目標年度2033年)

- ・産業廃棄物量 30%削減(2013年対比)
- ・再資源化率 100%



炭酸ソーダ製造プラント

◆環境調和型の商品、技術の開発◆

日本政府はGHG排出量を2013年対比で2050年までに80%削減することを目標に掲げており、これを達成するためには各産業界でのイノベーションと業界の枠を超えた連携取組みが必要となります。

環境ビジョン2033では、戸田工業グループで提供する商品、技術に対して、3段階評価(優:環境調和型、良:環境配慮型、可:標準)を行い、2033年までに100%優:環境調和型とします。

◆循環型社会形成への取組み◆

循環型社会形成推進基本法、資源有効利用促進法、グリーン購入法における事業者の義務として、事業活動を行う際に原材料などが廃棄物などとなることを抑制するための必要な措置を講じます。原材料などがその事業活動において循環資源となる場合には、自ら適正に循環的な利用が行われるための必要な措置を講じます。また、再生品を使用することなどにより循環型社会の形成に自ら努め、国又は地方公共団体が実施する循環型社会の形成に関する施策に協力します。

現在、小野田事業所では、主原料である硫酸鉄を廃酸、鉄スラップから自家製造しています。



硫酸鉄製造プラント

2) 国際NGO:CDP(カーボン・ディスクロージャー・プロジェクト)気候変動質問書

2016年よりCDP気候変動質問書に回答し、機関投資家などに気候変動への取組みを開示しています。

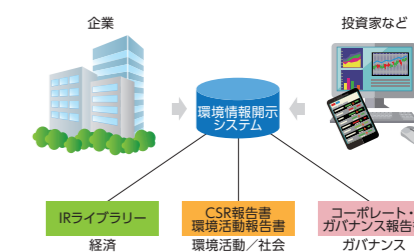
2019年に環境ビジョン2033を策定、これまでの受動的な取組みから能動的な取組みへ転換し、それまでのDスコアからCスコアへステップアップしています。増大する環境リスクと新しい機会を特定し、経営戦略へ反映させます。

2016年	Dスコア	Aスコア:Leadership
2017年	Dスコア	Bスコア:Management
2018年	Dスコア	Cスコア:Awareness
2019年	Cスコア	Dスコア:Disclosure



3) 環境省:環境情報開示基盤整備事業への登録

ESG(環境、社会、ガバナンス)投資に対応すべく、環境情報開示システムにIRライブラリー、CSR報告書、環境活動報告書、コーポレート・ガバナンス報告書を登録しました。「ESG対話プラットフォーム」を通して投資家などとの会話を開始しました。



4) 第三者(EcoVadis社)によるCSR評価

戸田工業グループではCSR・環境安全部、CSR委員会、環境委員会が主体となりCSR活動を推進しています。

この活動に対し第三者:EcoVadis社によるCSR評価を受けています。EcoVadis社評価は、4つのテーマ(環境、労働と人権、倫理、持続可能な資材調達)に分かれ、21の課題について国連グローバル・コンパクト原則、国際労働機関(ILO)協定、グローバル・レポーティング・イニシアティブ(GRI)規格、ISO26000、シリーズ(CERES)原則といった国際的なCSR規格に基づいて行われています。

2019年はSILVER Medal、2020年はBRONZE Medalを獲得しています。



5) 持続可能な調達

◆方針

戸田工業グループは、国連グローバルコンパクトの定める「人権」、「労働」、「環境」、「腐敗防止」に関して世界的価値観を共有し、「調達方針」、「指針」、「紛争鉱物に関する基本方針」(ホームページで公開中)に従い、取引先と持続可能性を高めことにより、事業競争力、企業価値を向上させ、社会への貢献を図ってまいります。

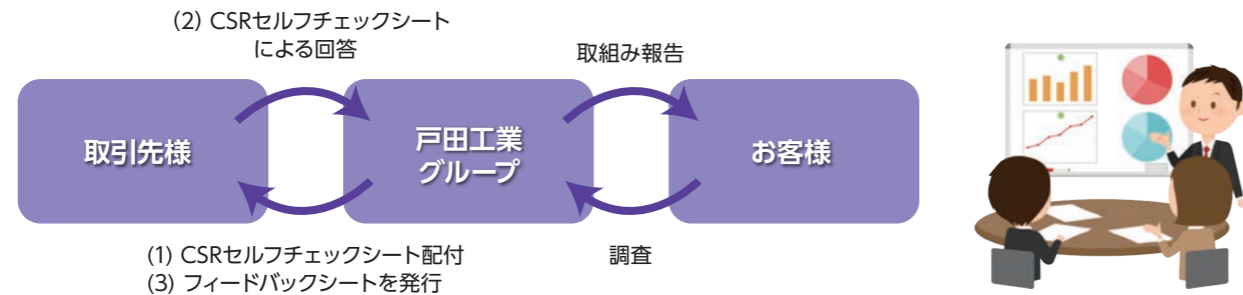
「指針」

1. 法令の遵守 : 調達に関わるすべての活動において法令を遵守し、公正な取引を行います。
2. CSR : よりよき市民としての責任を認識し、自らCSR活動を行うと共に、志を同じくするお取引先様と連携し、社会貢献を果たしていきます。
3. グリーン調達 : 購買取引は、資源保護ならびに環境保全に留意した調達を行います。
4. 公正公平な取引 : 購買取引は、広く取引市場を開放し、国内外を問わず公平かつ公正な基準にもとづいて行います。
5. 取引先選定 : 取引先の品質、価格、納期などを総合的に評価し、また原価低減活動推進、新材料、新技術の提供可能性なども考慮した経済合理性に基づく選定を行います。
6. 購買取引は、常に堅実性を旨とし、投機的な取引は行いません。
7. 購買取引において提供される資料や情報は、厳格に管理いたします。

◆CSR調達

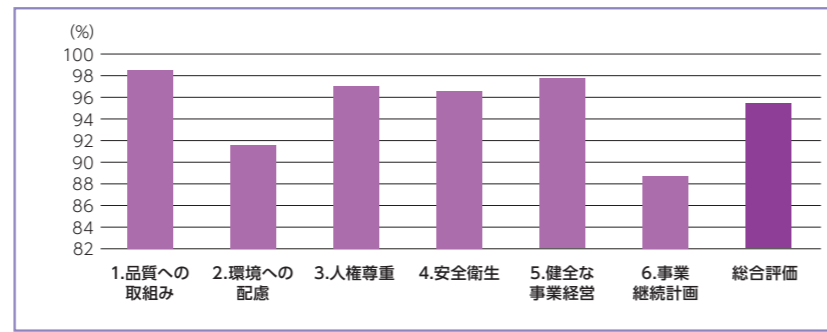
購買規程で取引先様調査を義務付けています。取引先様調査は、品質保証、供給能力、BCP/BCM、環境保全、人権、法令遵守、社会貢献など様々な側面から取引先様よりご回答をいただき、価値観を共有し、その取組みを通して、顧客、株主、社会の信頼、期待、安心を得ることを目的としています。2019年度より国内外の主要取引先様には毎年『CSRセルフチェックシート』(日本語、英語、中国語)への回答をお願いし、弊社からはフィードバックシートを発行しています。主要取引先様にはPDCAサイクルを廻すことでCSRのスパイラルアップをお願いしています。

サプライチェーンの皆様と連携し、持続可能な調達を推進します。



	2019年度		
	発行数	回答数	回答率
総計	48	45	94%

2019年度の『CSRセルフチェックシート』運用実績



サプライヤCSRセルフチェック結果

◆グリーン調達

グリーン購入法の特定調達品目は、2001年度に14分野101品目でスタートし、2018年度には21分野275品目となりました(2018年2月閣議決定)。国が公開している「グリーン購入の調達者の手引き(2018年2月)」を参考にし、化学物質管理、省エネルギー、省資源、リサイクル、梱包材、再生・分解・処理の容易性、生態系への影響などを考慮し、環境負荷の低減により配慮されている製品・サービスを調達しています。

【対象商品】紙類、文具類、家電製品、オフィス機器、温水器、照明、作業服、エアコンディショナー、消火器

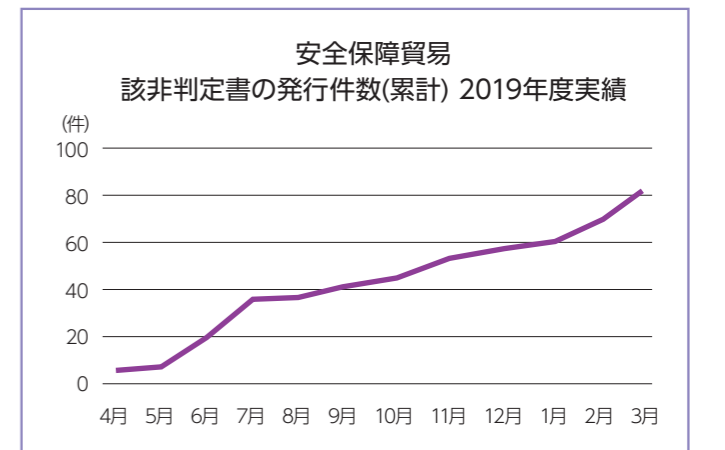
参考となる環境ラベルなど



6) 安全保障貿易管理

戸田工業グループは、安全保障輸出管理規程を制定し、法令を遵守するのみならず、国際的な平和と安全の維持に貢献することを宣言します。

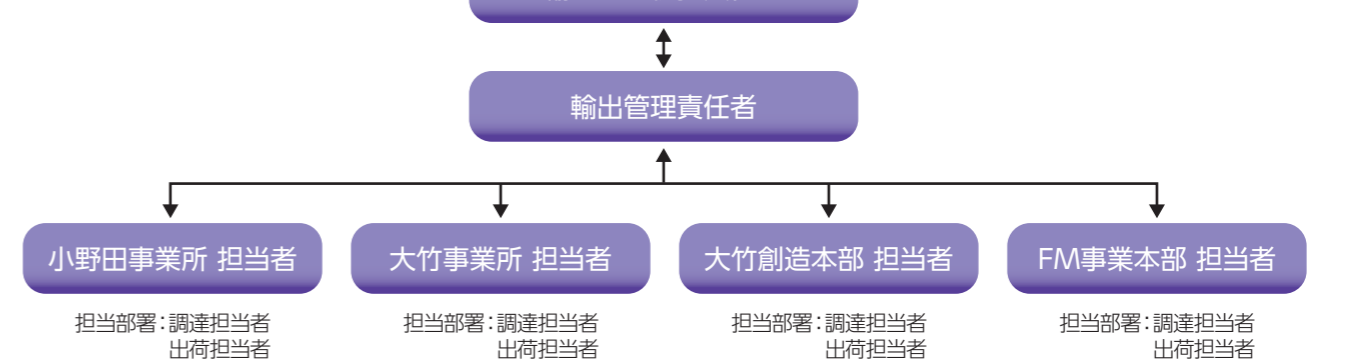
戸田工業グループでは、武器や軍事転用可能な貨物・技術が、国際社会の安全性を脅かす国家やテロリストなどに渡ることを防ぐため、製品・技術情報などを輸出、提供する際は、外国為替および外国貿易法(外為法)および適用されるその他の国際法、外国法に基づき、誠実に輸出管理を行っています。



◆安全保障輸出管理のお問合せ

戸田工業グループの製品または関連する技術の安全保障輸出管理についてのお問合せは、最寄りの技術・営業担当者へお願い申し上げます。安全保障輸出管理は、社長直轄のCSR・環境安全部が統括管理していますので、本社でもお問合せに対応させていただきます。

◆安全保障輸出管理の組織◆



7) 職場の安全・衛生 (安全衛生活動)

戸田工業グループでは、働く人の安全・衛生を最優先とし、戸田工業グループが成長し続けるための人財育成を推進します。

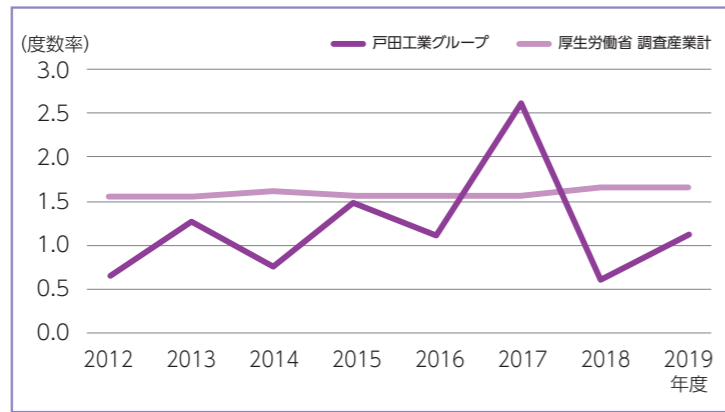
労働安全・衛生活動の取り組みを以下のように運営し、活動に統一性を持たせ、戸田工業グループ全体に安全・衛生風土の育成を推進しています。

- ・中央安全衛生会議のもとに、各事業所の安全衛生委員会を運営する。
- ・モノづくり推進室による教育を通して、働く仲間1人ひとりが安全・衛生について深く考え・行動できるひとづくりを行う。

◆労働災害に関するデータ

2019年度の休業災害(休業日数1日以上)は、グループ全体で2件発生しました。中央安全衛生会議、モノづくり推進室、各事業所の安全衛生委員会と連携して、引き続き“労働災害の撲滅”を目標とした活動を展開してまいります。

戸田工業グループ 休業災害度数率の推移



※度数率：100万延実労働時間あたりの労働災害による死傷者数で、災害発生の頻度を表すもの。

◆安全活動

小野田事業所および大竹事業所では、毎年、全国安全週間・衛生週間を前に「安全大会」を開催しています。小野田事業所では宇部労働基準監督署、大竹事業所では廿日市労働基準監督署より講師をお招きして、災害の動向・災害の防止計画に係わる講話を従業員と共に傾聴させていただく場を設け、安全意識の高揚を図り、また、前年度の災害発生状況を再認識し当年度の目標を見つめ直し・設定する場として活動を行っています。



小野田事業所安全大会



大竹事業所安全大会

◆各種講習・セミナーの開催

戸田工業グループでは、“KYT講習”、“熱中症講習”、“低圧電気取扱い特別教育”、“粉じん障害防止特別教育”、“フォークリフトなど安全再教育”、“GHSとラベル・SDS作成法”、“交通安全講習”など、各事業所毎に設定した重点テーマに焦点をあてた講習を随時実施することにより、グループ従業員の安全・衛生に関する正しい認識の普及に努めています。



フォークリフトなど安全再教育



熱中症講習



粉じん障害防止特別教育



健康講話 (講師産業医)



交通安全講習

◆安全道場での活動

2014年度より、戸田工業グループおよび協力会社の全従業員を対象として開講している安全道場が、2019年度までほぼ対象者への体感教育を完了しました。

この安全道場では、安全衛生の基本として“5S”、“KYT”を座学で講義しています。

さらに、「危険とは何か」「危険な状況への気付き」など、8種の体感装置に触れることにより、安全の大切さを“見て・触れて・考える”体感型安全教育としています。今後も、新規採用社員への教育を中心に、参加者自身が危険を疑似体験・体感することにより、職場に潜むリスクを顕在化し、危険感受性を高める気づきの場として運用してまいります。

◆緊急時対応訓練

戸田工業では、重油・灯油・LPG・水素ガスなどの可燃物を多量に取り扱う設備を保有することから、火災や爆発のリスクや化学物質流出による汚染リスクがあります。我々は、これらの潜在リスクを発現させないため、日常・定期点検を実施するとともに保安体制を整備しています。被災時に重大な環境影響を与えるおそれのある設備に対して、設備を継続的に維持管理・被災対応するための対策として、各事業所では、緊急時対応訓練を毎年実施しております。この訓練では、地震などによる①「人的被害」②「火災発生」③「建物被害」を想定して、避難、救助、消防などの訓練を行いよりレベルの高い対応ができるよう努力しています。また、本社に設置されるリスク管理委員会と連携訓練することによる迅速な情報の共有化も訓練対象としています。

下段に、各事業所で実施された緊急事態対応訓練の写真を示します。



消防訓練風景



負傷者の救出訓練



救護所テント設営風景



放水訓練風景

1) 地域との交流

◆環境美化活動

戸田工業グループでは、各事業所近隣の河川や道路沿いの清掃活動、地方自治体主催の海岸・公園・道路のクリーンアップ行事などに参加し、環境美化活動を積極的に展開しています。



◆第10回山陽小野田市かがく博覧会

ブースでの活動の様子



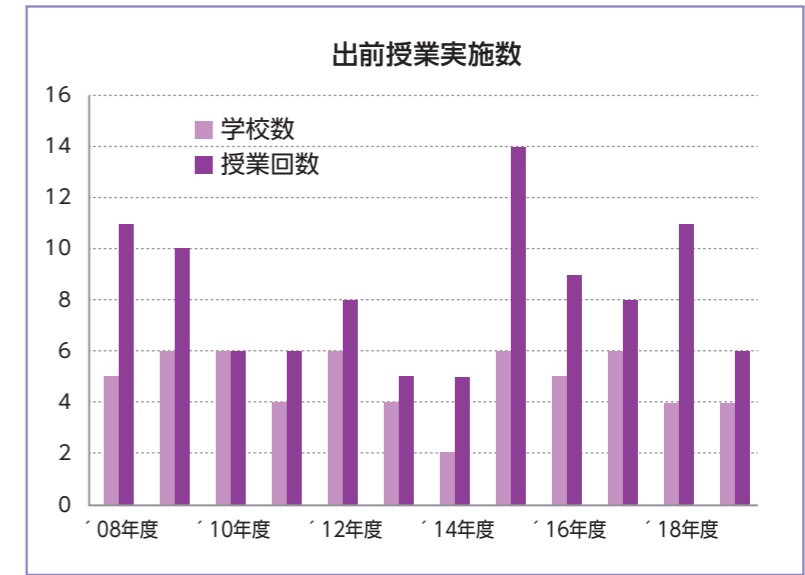
おのだサンパークで2019年9月28日、29日に第10回山陽小野田市かがく博覧会が開催されました。戸田工業は2015年から5年連続で参加しております。戸田工業ブースでは28日に『簡単手作りモーターを作ってみよう!』を出展し、約120名の子どもたちにモーターを作ってもらいました。子どもたちに科学を学ぶ楽しさ、驚き、感動を提供できるよう、今後も活動を継続いたします。



戸田工業ブース

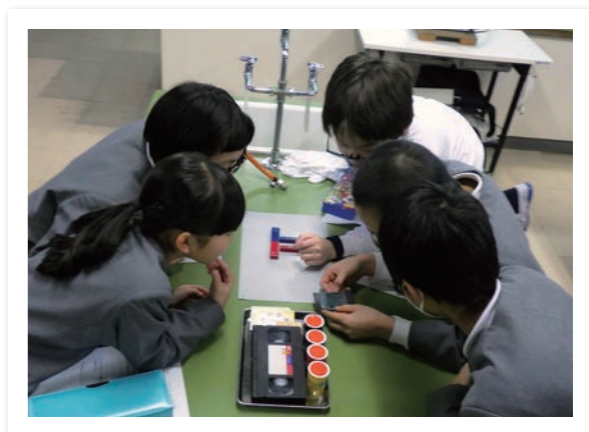
◆理科出前授業

戸田工業では、2008年度から、広島県内の小中学生を対象とした理科出前授業を実施しています。子どもたちは、色々な種類の永久磁石に触ったり、永久磁石、エナメル線コイルと乾電池を使った簡単手作りモーターを作ったりすることで、永久磁石や電磁石の働きを体験し、磁石を使った製品が身近な生活で役立っていることを学んでいます。こうした活動により、より多くの子どもたちが理科に興味を持ち、将来、日本の科学技術の担い手になってくれることを願っています。



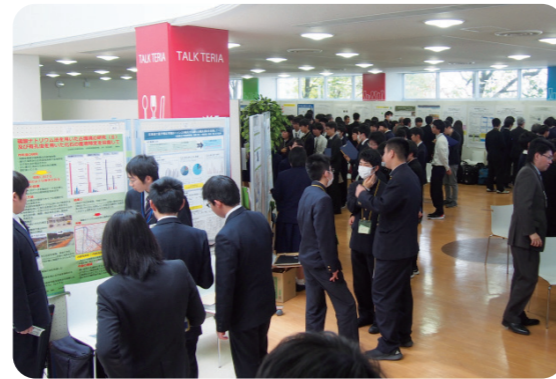
◆理科出前授業の様子◆

(写真は一般社団法人広島県発明協会様よりご提供いただきました)



◆広島県内高校生による科学研究発表会への参加

広島県教育委員会は、県内高校生が授業や科学クラブなどで取り組んだ科学研究の成果発表を行う「広島県科学セミナー」を毎年開催しています。2019年度は、昨年度に続いて戸田工業を含む協賛企業6社が招かれ、広島市立大学で開催されました(2020年2月8日)。参加校数:18校、総生徒数:252名、発表数:79件(物理、化学、生物、地学、数学、情報の6分野)で、ポスターセッションによる活発な発表・討論が行われました。



ポスター発表の様子

(写真は広島県教育委員会様よりご提供いただきました)

10件の優秀賞と7件の特別賞が表彰され、戸田工業は1件の発表に対して特別賞を授与しました。自然科学に興味を持ち、眼を輝かせて質問に答える生徒達の高い将来性が実感できる貴重なイベントです。戸田工業は、今後も積極的に参加いたします。

◆広島大学オープンキャンパス 企業展示

広島大学オープンキャンパス(2019年8月20、21日)において、工学部第三類では高校生向けに、科学技術のすばらしさ、具体的に世の中でどのように役立っているかを、企業展示を通して体験していただくため、中国地区化学工業懇話会(事務局:広島大学工学部化学工学講座)会員企業が“化学の夢”を醸し出すような先端素材や技術、おもしろい物質などを展示しました。このイベントへ毎年参加し、高校生へ化学のおもしろさ、不思議さ、夢を伝えていきます。



展示場風景

【展示品】

- 1.化粧品サンプル(ナノ粒子の応用)
- 2.スマートフォンやパソコン用のリチウムイオン電池材料
- 3.回り続ける独楽(磁性材料)
- 4.ICタグ(無線通信デバイス)
- 5.熱くない?うるさくない?コーティング(断熱、防音塗料)



◆コイ・こいフェスティバル・イン・おおたけ

広島県大竹市で2019年11月10日に総合市民会館および大竹消防署周辺で『コイ・こいフェスティバル・イン・おおたけ』が開催されました。戸田工業は環境・企業PRコーナーへ毎年出展し、地元の皆様と交流を深めています。



企業PRコーナー

◆緑の伝言プロジェクトへの賛同



A-bombed Trees

1945年の原爆で焦土と化し、「向こう何十年は草木一本生えない」と言われた広島市街。今では平和記念公園や平和大通りは緑にあふれる美しい町並みを見せてくれています。この緑の中に当時被爆した樹木が160本含まれています。この被爆樹木を後世に残していくことを目的に2005年8月6日に「緑の伝言プロジェクト」がスタートしました。戸田工業グループは、世界平和のために被爆樹木の保存活動をしている同プロジェクトに賛同します。



緑の伝言プロジェクト2020年WEBサイト
https://www.green-greetings.com/



緑の伝言プロジェクト2020年ポスター

2) 人権の尊重

戸田工業グループは、従業員一人ひとりの独創性と多様性を財産として、その能力の限りのない飛躍と活動を応援し、公正に評価します。そして従業員のゆとりと豊かさの充実に努め、ともに生活していくことを目指します。

◆基本方針

戸田工業グループは、相互理解の前提となる基本的人権を常に尊重します。また、戸田工業グループは、人種、信条、性別、社会的身分、国籍、疾病、障害などによる差別は行いません。

◆具体的行動規範

(1) 一切の差別の排除

役員および従業員は、個人の基本的人権を尊重し、いかなる差別的言動、暴力行為、セクシャルハラスメント、パワーハラスメントなど、人権を無視する行為をしてはならない。

(2) 個人のプライバシーの保護

役員および従業員は、事業活動上社内外の個人情報に接する場合には、その取扱いに当たって、個人のプライバシーが侵害されることのないよう細心の注意を払うとともに、適切に管理しなければならない。

(3) 不当な労働の排除

役員および従業員は、不当な労働を排除しなければならない。また、各国・地域の法令が定める雇用最低年齢に満たない児童を仕事につかせてはならない。役員および従業員は、戸田工業グループと同様の対応を販売店・協力会社にも求めなければならない。

◆制度の充実◆

「ハラスメント防止規程」、「個人情報の保護に関する規程」、「育児介護休業規程」、「私傷病による休務および職場復帰に関する規程」、「ストレスチェック制度実施規程」、「コンプライアンス推進規程」、「コンプライアンス相談窓口制度」などを制定し、グループ全体で人権の尊重に努めています。

相談窓口制度

ハラスメントに関する相談・苦情に対して人事総務部に相談窓口を設け、ハラスメント防止規程に沿った適切な対応を行っています。

◆人権尊重に係る取組み◆

(1) 外国籍の方の採用活動

当社では、新卒採用を中心に外国籍の方の採用を積極的に行っており、外国籍正社員は8名を数えます。また、2019年度より、理工系留学生の県内企業への就職を促進する広島県の取組みに参加をし、アジアをはじめとする各国からの優秀な人材の採用に力を入れています。

(2) 海外子会社スタッフに対する研修支援

海外子会社の現地マネージャー（外国籍）のキャリアアップのために、2017年度から当社では教育支援を行っています。2019年度は、海外子会社のスタッフを対象に、大竹事業所にてQC研修を実施しました。

(3) 海外赴任者への教育

海外子会社に赴任している日本人社員（赴任予定者も含む）に対して、円滑な子会社経営のために各種研修（異文化ビジネスの基本など）を実施しています。

3) 研修制度

◆新入社員研修

教育制度の中でも新入社員研修には特に力を入れています。
技術系・事務系関係なく、同じ研修を一緒に取り組んでいきます。

導入研修

生活のリズム、気持ちを学生から社会人へと切り換え、仕事人としての基本を学ぶための研修です。
・禅寺研修（他社新入社員らとともに、気持ち、生活リズムの切り替え）
・ビジネス研修（マナーをはじめ、「心技一体」を実践できる「仕事人」の基本を修得）
・社内研修（会社組織、製品についての講義や社内制度の学習、工場見学他）

現場研修(5月～8月の4ヶ月)

長期間にわたり職場体験をすることにより、社風、現場を肌で感じ、更には先輩社員らと直に交流を行う研修です。
生産部門、研究開発部門、営業部門で、モノづくりや開発、営業活動の基礎を学んで、仕事を通じて実務知識を身に付けます。

正式配属決定(9月)

配属は、各人の希望や適性、社内のニーズを照らし合わせて決定します。その後、社内ジョブローテーションにより、様々な経験を積んでいきます。

◆OJT研修

新入社員OJT制度の充実（育成計画、OJTリーダー研修の実施）、安全衛生・品質管理教育の実施、国内大学・研究機関への派遣など

◆OFF-JT研修

階層別研修、重点課題研修、職種別研修、メンタルヘルス研修、海外赴任前研修など

◆自己啓発

通信教育援助制度の実施
(各種コースの中から各人が自由に講座を選択。優秀点で卒業すれば、受講料免除。)



階層別研修の様子



新入社員研修（マナー研修）の様子

4) 従業員インタビュー

今回は、海外の子会社に出向している従業員2名と国内で勤務する若手従業員1名に、勤務の様子や休日の過ごし方などをインタビューしてきました。

戸田麦格昆磁磁性材料(天津)有限公司

片山 正彦さん、三木 啓靖さん

Q:戸田麦格昆磁磁性材料(天津)有限公司(以下、TMT)で働く皆さんを紹介してください。

片山:スタッフは計51名で、オペレーターは約20名、残り約30名が日勤スタッフ、メンテナンス、品質管理などを行っています。平均年齢は35歳、平均勤続年数は7年、設立当初からのメンバーも多いです。



三木さん

片山さん

Q:普段の会話で気をつけていることはありますか?

三木:通訳を介しているので、広島弁を使わないことと、短いセンテンスで話すことです。また、街で見かけて分からなかったものについて聞いたり、覚えた中国語を使ったり、仕事以外の会話も積極的に going to しています。髪型や服装の変化などに気づいたときも声をかけますね。

片山:こちらの意図が一度では伝わらないこともあるので、説明内容について色々な角度から質問して、理解の確認をするようにしています。また、現在はコロナの影響でリモートでのやりとりを行っていますが、そうした状況下でも円滑にコミュニケーションが行えるように、「何でもいいから電話してね」と日頃から声をかけています。

三木:それと、安全については、しっかり言います。伝わっていなさそうときは、とりあえず漢字か英語で書きます。

Q:業務外のコミュニケーションについて教えてください。

片山:年末に忘年会があります。あとは個別に飲みに行ったり、会社の近くにお店があるので、ランチに行ったりもしますね。

三木:引越しのときに、イケアに連れてってもらいました。一緒にカーテン屋巡りもしましたね。万里の長城へも一緒に行きました。

Q:TMTの強みを教えてください。

三木:設備チームが優秀です。改善を継続、予防処置をきちんとしてくれています。

片山:中国は経験を積んだら次のステップ(会社)に行く傾向がありますが、TMTのスタッフは、定着してくれていますね。



TMTの皆さん

Q:最後に一言お願いします!

片山:総経理として1つの会社を任されているので、責任は重大ですが毎日やりがいを感じています。海外では生活すること自体が大変ですが、そこはあえて不自由を楽しむようにしています。誰もが経験できることではないので色々なことにチャレンジしていき、公私ともに幅を広げていきたいと思っています。

三木:天津にお越しの際はぜひTMTへお立ち寄り下さい。心より歓迎いたします。

生産技術本部 設備保全部 設備保全1グループ

川田 貴大さん



入社して1年が経過しました。新入社員研修では、開発・生産・販売の各部門の業務について幅広く体験しました。この研修では、各部門のものづくりに対する姿勢を学ぶと共に、戸田工業の歴史・企業としての責任、業務上の他部署との関わりなど、今後業務を行う上での基礎知識を習得しました。

私は現在、生産技術本部、設備保全部の一員として日々業務に取り組んでいます。業務内容は主に設備の修理対応です。配属当初と違い、現在では主担当として工事管理を行う機会が増えてきました。初めての経験が多く、失敗することもあります。上司や先輩方の親身なアドバイ

スを受け、日々頑張っています。

今後は着実に設備知識・技能を習得し、安全面など様々な視点で最適な設備の修理・改善方法を検討・提案出来る技術者となるように日々業務に取り組む所存です。

Go Beyond 200! プロジェクト

当社は2023年に創業200周年を迎えます。まずはその創業200周年に向け、また、その後の持続的な発展を大きな目標として、Go Beyond 200!(以下、GB200!)という名のプロジェクトが発足しました。このプロジェクトに参画するメンバーは、人生において大きな時間的な割合を占める仕事の時間を今よりもっと楽しく有意義なものにしたい、という思いのもと、各々が分科会を立ち上げ、小集団活動を通してボトムアップで会社全体を盛り上げていこうという意気込みで活動に取り組んでいます。活動内容は自由で、分科会の具体的な例としては、「企業認知度向上」や「未来の工程作り」などの勉強会があり、その種類は実に様々な広がりを見せています。

◆GB200!リクルート部

こうした取組みの1つに、入社5年以内の若手4人で立ち上げられた「GB200!リクルート部」があります。将来的に働き手不足が深刻な問題になると言われる中、そうした状況でも当社が変わりなく活気ある会社であり続けるために、会社の魅力を学生に伝え、共に働く仲間を絶えず増やしていきたい、との思いで立ち上がった分科会です。これまでに会社として初となる文系職希望学生向けのインターンシップの企画から運営までを一任いただき、人事総務部の協力を得ながら無事成功させることができました。ご参加いただいた学生からも好評だったようで、結果的には参加した学生の約8割がその後の採用にも応募して下さるなど大きな成果を得ることが出来ました。今後も本プロジェクトの大目標のもと、ボトムアップにより当社が今よりも更に魅力的な会社となる事を目指して日々活動を盛り上げていきます。



座談会の様子

5) 次世代育成支援・女性活躍推進活動

戸田工業では、次世代育成支援対策推進法および女性の職業生活における活躍の推進に関する法律の規定に基づき、次世代育成支援および女性活躍推進に関して、次のような行動計画を策定し、計画に沿った活動を進めております。

◆次世代育成支援行動計画(2016年4月1日から2021年3月31日までの5年間)

	目 標	目標達成のための対策	2019年度の実績
1	計画期間中に、 職場における育児に関する意識 を高め、育児を行う従業員に対し、理解と協力が得られる風土・体制とする。	育児に関する諸制度について、イントラネットなどを通じ定期的に周知を図るとともに、管理職研修などにおいても必要な教育を継続実施する。	職場における女性比率を高めるべく定期採用・キャリア採用活動を積極的に実施した結果、2019年度末時点で15.5%に拡大(2018年度末14.5%)。
2	計画期間中に、育児休業の取得状況を以下のとおりとする。また 勤務時間短縮の適用期間を広げるとともに、勤務時間短縮、繰上げ、繰下げ措置の取得を奨励する。 ※男性:取得者1人以上にする。 ※女性:取得率100%、復帰率100%を維持する。	・全従業員に、仕事と家庭の両立に関し啓蒙を継続して行う。 ・育児休業法、育児休業規程を周知し、特に男性の利用を促す。	2017年4月1日付改定の育児介護休業規程で、育児のために勤務時間の短縮または始業・終業時刻の繰上げ・繰下げ措置できる期間を中学校就学の始期に達するまでの期間に拡大。女性育児休業取得率100%および復帰率100%を堅持。
3	計画期間中に、 社員の総実労働時間を短縮する (所定外労働時間の削減、年次有給休暇消化促進、年次有給休暇の時間単位利用の適用拡大など)。	年次有給休暇の使用実績70%以上の維持および取得促進のための施策を検討する。	・年間所定外労働時間の削減(2018年度対比平均一人あたり1.16時間減) ・ノー残業デーの実施(各拠点) ・年次有給休暇の計画的付与制度の実施(創造本部) ・レンタルオフィスを用いた業務効率化推進(東京OFFICE)
4	子どもたちに、理科や化学のおもしろさを実感してもらおう。	・小・中・高校生対象のイベントへの出展を通じて、理科や化学への理解を促す。 ・小学生を対象に学校教育(出張授業など)への協力を行う。	・理科・化学イベント出展件数: 2件 ・理科出前授業実施校数(回数): 4校(6回)

◆女性活躍推進行動計画(2016年4月1日から2021年3月31日までの5年間)

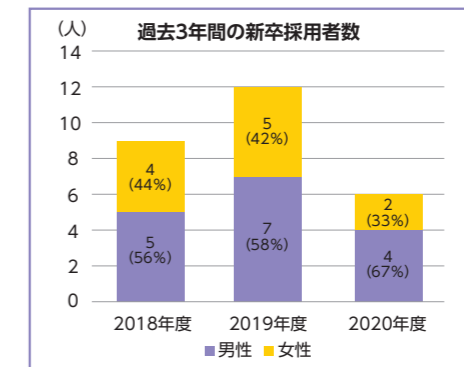
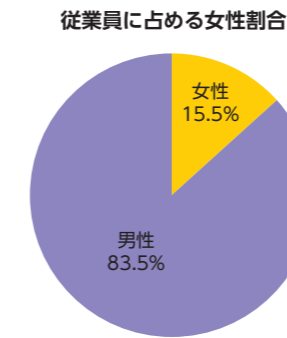
女性社員の比率が低いという当社の課題に対して計画期間中に、新卒採用者に占める女性比率を30%以上とするという目標を掲げ、以下の対策を進めています。

◆目標達成のための対策◆

採用選考基準やその運用の見直しを行うとともに、就業後の仕事と家庭の両立支援策の拡充を行い、育児休業の取得率などの情報を開示することによって、応募者数を増加させ、新卒採用者に占める女性比率の増加を目指します。

◆実績◆ データはいずれも2020年3月31日現在 / 2019年度実績(新卒採用者数は2020年度実績を含む)

(1) 採用



(2) 継続就業・働き方改革

	男性	女性	平均
平均継続勤務年数	23.6年	11.7年	21.9年
平均年齢	49.2歳	38.1歳	47.6歳

月平均所定外労働時間	9.34時間
年次有給休暇平均取得率および平均取得日数	72.3% / 13.9日

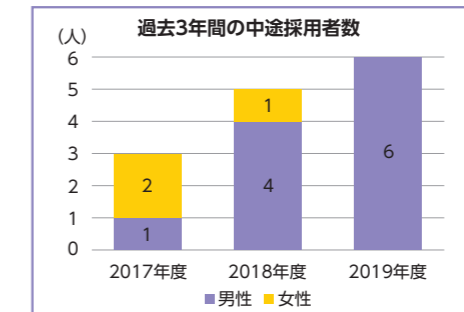
	男性	女性
育児休業対象者数	8名	3名
取得者数	0名	3名
取得率	0%	100%

※女性の取得率は過去10年以上、100%を継続。

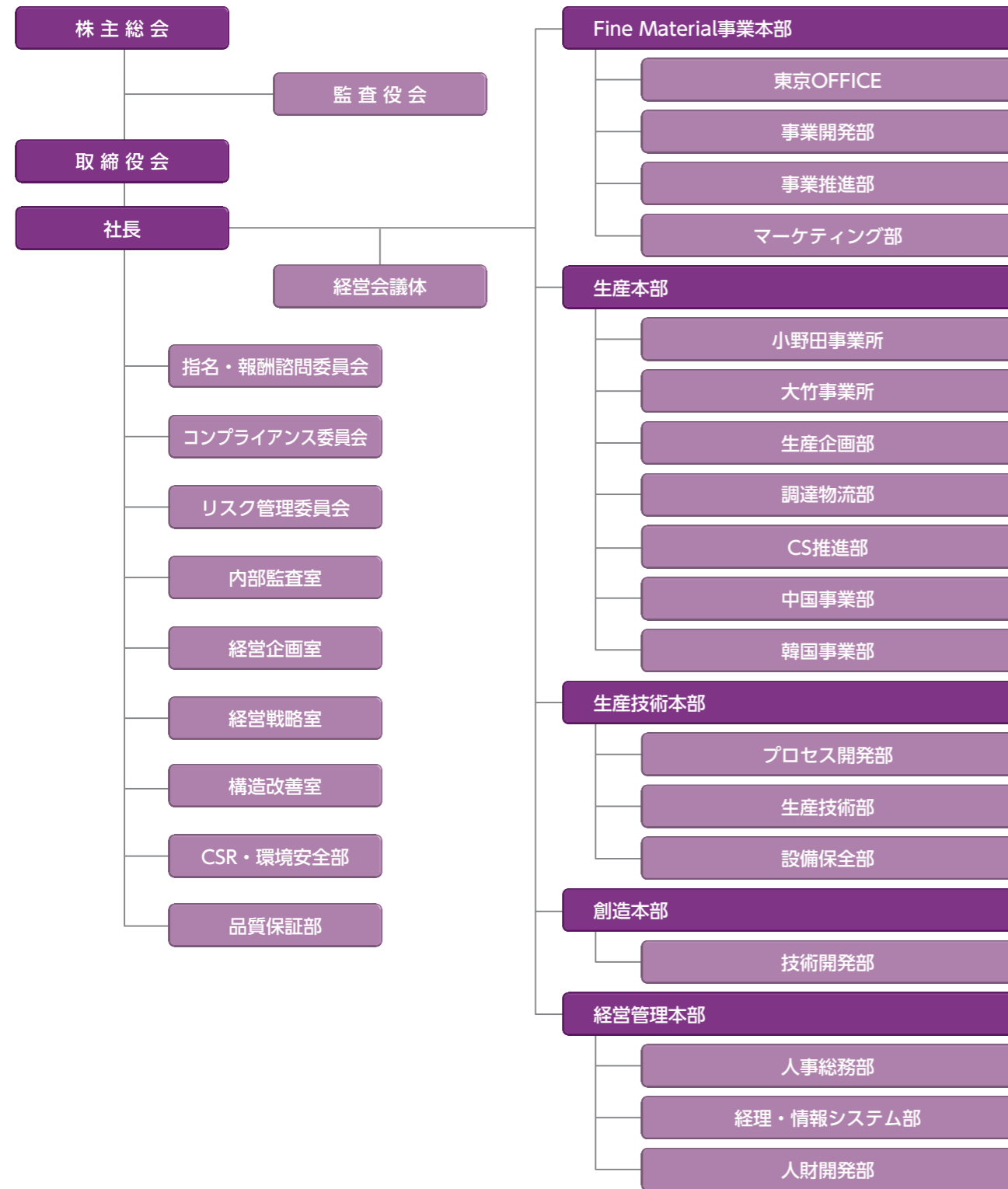
(3) 評価・登用(2020年3月31日現在)

係長級にある者に占める女性労働者の割合	11.8%
管理職に占める女性労働者の割合	2.7%
役員に占める女性の割合	0%

(4) 再チャレンジ(多様なキャリアコース)



組織図



<会社データ>

社名：戸田工業株式会社 TODA KOGYO CORP.
 本店所在地：広島市南区京橋町1番23号
 創業：1823(文政6)年
 設立：1933(昭和8)年11月30日
 資本金：74億77百万円
 従業員数：351名(単体)、1,188名(連結) ※2020年3月31日時点

事業拠点



※BTBM=BASF戸田バッテリーマテリアルズ合同会社





©2020 S. FC



©1992 S.F.C

戸田工業株式会社は
地域スポーツを
応援しています!



©1992 S.F.C



お問合せ先: CSR・環境安全部 (TEL: 0827-57-6129)

発行: 2020年11月

